

清澤滿之 （多田鼎） 僧侶。文久二年六月、二十六日洋張國生れ、明治二十六年六月六日歿（二六三一一九〇三）。舊姓德永、幼名滿之助、通稱德永賢了。號建峯、臘翁、石水、骸骨等。明治十一年得度、二十年帝國大學文科大學經濟科卒。翌年愛知縣大濱の四方寺住職となり、清澤姓を継ぐ。二十九年「教界時言」を發刊、京門改革を唱へて除名處分を受けらる。二十二年浩々洞を開設し、翌年佐々木月樵、多田鼎、饒為敏等と雜誌「精神界」創刊。

著書『折學沈論』（徳永滿之名、合著・菅野幹編題并評、明治二十年十月、林竹二郎刊、大阪・哲學會房）、『明治廿六年夏期講習會佛教講話集』（同上、田持吉郎刊、大阪・哲學會房）、合著・廣田一乘編、明治二十六年十月、二十日佛敎學會）、『懺悔録』（伊藤賢達編、明治二十六年十月、二十日佛敎學會）。

（明治二十九年十月五日金尾文淵堂）、『清澤文集』（昭和二年七月二十一日岩波書店「岩波文庫」）、『清澤滿之全集・第五卷一日記・語録』（多田鼎校訂・浩々洞編、昭和十年二月十四日有光社）、『わが信念―洒床いゝる友へ』（昭和二十七年二月、二十五日弘文堂「アテネ文庫」）等。

文献、饒為敏著『清澤先生の信仰』（明治四十二年七月一日無我山房）、觀照社編『清澤滿之』（昭和二年九月、二十日京都・觀照社）、饒為敏編『清澤先生の言行』（昭和二十六年十一月十六日石川・豊信學舎）、敎化研究所編『清澤滿之の研究』（昭和二十二年十一月、二十日京都・敎化研究所「敎化研究」別冊）等。